

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称	景観論					授業形態		講義	
科目コード	710064	単位数	2単位	配当学年	3年	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング
担当教員名	平岡 直樹								
授業概要	<p>本授業の目的は、まず、景観に関する基礎的概念を身につけることである。続いて、人間に景観の美しさを感じさせる背景にある規則性を認知 科学的な視点から考察する。そして、文化としての景観の理解を深め、心地よい空間や環境をつくりだすために、どのように操作すればよいか検討する。</p> <p>単なる技術論ではなく、景観を評価する眼を養うことを目指します。また造園と景観のかかわりも考える。日本の景観のみを対象とするのではなく、広く世界の景観を見渡し、国際的な視野で学ぶ。</p> <p>建設コンサルタント（都市計画及び地方計画部門）にて実務経験を有する教員が、景観の調査、計画に関する業務の実例について、写真や図版を用いながら解説する。</p>								
関連する科目	造園学概論、世界の庭園と歴史、自然緑地計画論を事前に、履修後は、都市緑地論、建築学概論を受講することが望まれる。								
授業の進め方 と方法	毎回の授業にて、前回の授業の重要と考えられる項目についての小テストを行う。小テストの回答は次回の授業の冒頭に行う。小テストに備えて授業の後でしっかりと復習しておく。小テストでは、景観にかかわる雑学クイズも出題す。採点の対象とはしないが、知識を深める参考にする。授業は、景観に関わる基本理念を講義するとともに、造園分野に関係の深い事柄について示す。また、理解を容易にするために写真や図版をなるべく多く提示する。自分自身でも日常生活の中で類似の景観に出会った時の参考となるであろう。								
授業計画 【第1回】	ガイダンス 講義の内容、位置づけ、目的、全体計画の説明 参考文献の紹介を行う。								
授業計画 【第2回】	景観に関する基礎的概念 用語としての使い方や類似した用語までを学ぶ。								
授業計画 【第3回】	人の視知覚能力と景観 人間の目の特性や能力を学ぶ。								
授業計画 【第4回】	景観の種類と工学的把握 景観に関わる基礎的概念を学ぶ。								
授業計画 【第5回】	景観の美しさとは何か？ 景観を美しいと判断するとはどういうことなのかを学ぶ。								
授業計画 【第6回】	認知科学的アプローチ① 認知科学的基礎知識を学ぶ。								
授業計画 【第7回】	認知科学的アプローチ② 認知科学と景観とのかかわりを学ぶ。								
授業計画 【第8回】	認知科学的景観の美 動物や人間のもつ性質から景観の特質を考える。								
授業計画 【第9回】	景観分析の基本的指標 対象の見え方を分析するための基本的指標となるいくつかの要素を学ぶ。								
授業計画 【第10回】	森林景観とフォレストスケープ 自然緑地の景観を評価したり創造したりするときに考慮すべきことを学ぶ。								
授業計画 【第11回】	色彩 色についての基礎知識や景観的特性について学ぶ。								

授業計画 【第12回】	景観の法制度 景観にかかわる法制度を学ぶ。
授業計画 【第13回】	景観の基礎的調査+分析の事例① 庭園景観の分析事例を取り上げる。
授業計画 【第14回】	場所の記憶を活かした景観づくり+分析の事例② 河川景観についての分析事例を取り上げる。
授業計画 【第15回】	都市街路景観+分析の事例③ 都市景観の分析事例を取り上げる。
授業の到達目標	1) 景観について体系的に学び、景観や風景の見方や考え方を身につけたのち、心地よい空間や環境が成り立っている要因を理論的に理解する。【専門分野の知識・理解】【専門分野のスキル】 2) 景観にかかわる専門職業人として必要な基礎的知識や技術を学び、持続可能な循環型社会の実現に向けた課題発見と問題解決をはかる手がかりを身につける。【課題発見・分析・解決力】【実践力】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)
授業時間外の学修 【予習】	第1回目の授業で示す参考図書など景観や風景に関する資料を授業前に読んでおく。また、自らの景観についての感性を深め、景観の社会的意義を理解するために、身近な都市や自然地に赴き、その景観成り立ちや社会的評価などについて考察を深めておく。(約1時間)
授業時間外の学修 【復習】	授業後に理解が曖昧な時は配布資料を再度精読する。毎回の授業にて、前回の授業の重要と考えられる項目についての小テストを行う。小テストに備えて授業の後でしっかりと復習しておく。(約1時間)
課題に対する フィードバック	小テストは、採点后に返却し、次回の授業にて解説をする。レポートは採点后に返却する。必要がある時はコメントする。 定期試験は試験後に解説する。
評価方法・基準	以下の項目に基づいて評価する。 1) 小テスト及びレポート20点 2) 定期試験80点
テキスト	授業中において配布する資料、及び授業中に紹介又は指示する書籍
参考書	第1回目の授業（ガイダンス）において紹介する。主なものの一部を以下に示す。 ①篠原修編・景観デザイン研究会『景観用語事典 増補改訂版』彰国社、2007 ②福井幸夫、空京子『社会基盤整備のための景観設計学 脳から環境の美しさを考える』コロナ社、2006
備考	